

リンゴ腐らん病の発生にご注意ください!



腐らん病は、りんごの枝・幹を腐らせ、最終的には樹全体を枯死に至らしめる重要な病害です。原因は、主に剪定や摘果、収穫の際に生じる傷口からの菌感染。1～2年の潜伏期間を経て発症。病変部より胞子が飛散することで、木から木へ、園から園へ伝染します。園内や地域での蔓延を防ぐには、**①早期発見 ②早期治療 ③予防**が重要です。

早期発見

病勢進展が旺盛な4～6月に、生育不良や枝枯れが確認できた枝や主幹を点検しましょう。



感染部位
(剪定の切り口)

胴腐らん



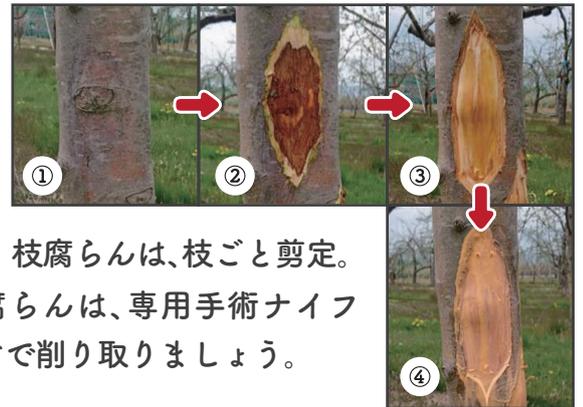
表面に黒色の小粒
(分生子殻)が生じる。

湿度が高いと、黄色の糸屑(胞子角)が生じる。

診断ポイント

- 罹病部は淡褐色、赤褐色
- 表皮は湿気を帯び、指で押すと弾力がある
- 特有の発酵臭がする

早期治療

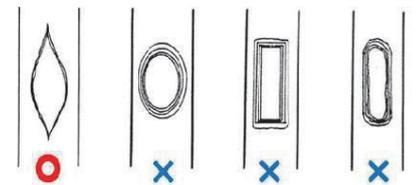


枝腐らんは、枝ごと剪定。

胴腐らんは、専用手術ナイフなどで削り取りましょう。

木質部に対して
垂直に削る

紡錘形(中心が太く、両端が細く)に切り取る



- 表面だけでなく、木質部に到達するまで、形成層の変色部を削り取る
- 削り取ったあとに、感染防止とカルス形成促進のため、塗布剤で保護
- 罹病枝や削りカスは、集めて焼却するか、土中に埋めるなどして処分

予防

腐らん病の胞子は1年中飛散しており、傷口から感染します。年間を通じて総合的な対策が必要です。

時期	目的	薬剤(令和7年1月現在)
剪定後	剪定切り口の保護	トップジンMペースト、バッチレートなど
発芽10日前(休眠前)	剪定切り口からの感染防止	石灰硫黄合剤、トップジンM水和剤、ベンレート水和剤
6月下旬頃(あら摘果後)	摘果後の果台からの感染防止(枝)	トップジンM水和剤、ベンレート水和剤
12月上旬・中旬	収穫後の果台からの感染防止(枝) 翌春までの感染防止(胴)	石灰硫黄合剤(積雪の早い地域では散布時期を早めてトップジンM水和剤を散布してもよい)

※生育期の一般防除では、薬剤が枝幹部に十分にかかるように散布しましょう。

※農薬を使用する際には、ラベルをよく読み、使用上の注意事項を遵守しましょう。

相談・問い合わせはコチラ



佐久農業農村支援センター ☎0267-63-3167

JA 佐久浅間 三岡事務所 ☎0267-26-3022

小諸市役所 農林課 農業ブランド振興係 ☎0267-22-1700

